

労使研

「情報」第53号 2017年9月

労使関係研究協会
〒105-0014東京都港区芝2丁目
20番12号（友愛会館8階）
電話：03-3453-5386
FAX：03-3451-1710
関西支局
〒550-0001大阪市西区土佐堀
1丁目6番3号
（JAM西日本会館内）
電話：06-6225-2881

友愛会創立105周年記念式典

2017年8月1日、友愛会創立を記念する会主催の「友愛会創立105周年記念パーティー」を開催しました。式典・記念パーティーに122人が参加しました。

来賓あいさつ（上から）
川合孝典専務理事、政策研究フォーラム・谷藤悦史理事長
連合・逢見直人事務局長、民社協会・



主催者代表あいさつ 友愛会創立を記念する会・高木剛会長



司会
石田昭浩事務局長（電力総連）

乾杯
岸本明薫副会長（電力総連）



◆同日、記念する会開催に先立って友愛労働歴史館研修室で友愛会を顕彰する報告会が開催されました。報告会では「賀川豊彦と友愛会・総同盟」と題して、杉浦秀典氏（賀川豊彦記念松沢資料館副館長）からの報告がありました。

～労働講座～

① 第22回労働講座

日 時：2017年3月7日（火）

場 所：友愛会館8階・友愛労働歴史館研修室

テーマ：「働き方改革と労働法制の展開」

講 師：熊谷謙一氏（元連合労働法制局長、現国際労働財団アドバイザー）

日本の労働法制改善の歴史は労働基準法が優先されてきた。強い労働組合の力を背景に、労働条件の向上を勝ち取り、政策面でも労働基準が主要なテーマだった。

1986年、前川レポートにより内需拡大促進と構造改革が提言され、労基法の改正論議がはじまり、週40時間制を柱とする改正労基法が1988年に施行された。

政策実現の必要性が高まるなかで労働運動の統一の動きも進んだ。1982年結成の全労協は政策要求、減税運動などを展開。87年に民間連合が結成、連合総研の「政策要求と提言」は労組版前川レポートとも言われた。官民統一の連合は89年に結成された。

92年時短促進法施行、94年改正労基法施行。97年には中小企業の猶予措置も終了、完全週40時間制が実現。労働者全体の労働時間が短縮され、日本バッシングは沈静化した。

週40時間労働法制の獲得は一方、働き方の柔軟化（雇用の多様化と労働時間の弾力化）をもたらす。中堅社員には労働強化となる一面もあり、91年には電通社員の過労死事件、派遣社員の問題なども出てくる。そしてバブルが崩壊し、「失われた20年」がはじまる。現在、安倍長期政権下で、「一億総活躍国民会議」が一昨年、「働き方改革実現会議」が昨年発足した。

インターバル規制やホワイトカラーエクゼンション阻止など重要な課題がある。システムのインターネット化、AI・バイオ技術の進展などをふまえて日本の「働き方」改革を論議し、前川レポートを今日的に完成すべく労働改革を進める必要がある。28人参加。



② 第23回労働講座

日 時：2017年6月2日（金） 午後2時～4時（予定）

場 所：JAM西日本会館6階・講堂

テーマ：「基幹労連結成への道のり」

講 師：林 晃 氏（元造船重機労連大阪地協会長）

今回の労働講座は2003年に結成された基幹労連結成の経過や多岐に渡る課題克服についての講演をいただくべく、林晃元日立造船労組委員長を招いた。

入社後寮生活を送り400人のリーダーとして寮長も経験し、人事課では新入社員の教育活動も行い、団体活動、人事交流も多く経験し、社内で組合の統合があり、社員組合から初めて支部の書記長に就任したのが労働運動の出発点となり、その後日立造船労組の委員長に就任。

基幹労連結成については、2000年前後に組織の拡大が合言葉になり、産別の統合も盛んで、鉄鋼と造船、非鉄金属の三産別で基幹労連結成ということになった。2000年7月から組織統合検討委員会を発足し3年かけて規約、財政、地方組織等の作業委員会も設置し討議の結果、2003年9月結成大会を行うこととなった。



この統合では財政、人事でもめることなく進み、国の基本政策に関しても外交、防衛、原子力発電等についても意見の一致をみていてスムーズに結成できた。

日立造船労組が経験した、三度の大きな合理化での厳しい交渉等について、会社側と組合の信頼関係がなければ、交渉が決裂し日立造船という会社も存在しなかったのではないかと参加者31人。

③ 第24回労働講座

日 時：2017年7月21日（金）

場 所：東京グランドホテル

テーマ：「この道より我を生かす道なし！後篇」

講 師：服部光朗氏（元JAM会長、元連合副会長）

まずオルガナイザーの心構えについて。最近ではパソコンに頼りすぎているのが目立つ。必要なことは自分でメモすること。現場第一主義で、現場の実態がどうかをキャッチしていく。情報がすべてではなく、互いの人間関係、信頼関係が大切。リーダーとは委員長だけではなく、職場委員でも中央委員でも執行委員でも、そこで選ばれた人は皆、リーダー。常にリーダーの自覚をもって行動していただきたい。

理想や理論だけではなく、現実をどう受け止めて組合員の素朴な感情を受けて、皆で処理していく。松岡駒吉先生は、「百の理論よりも一つの実行」と言われた。ペーパーは1枚でいい。要求はできるだけ絞った方がいい。無駄な部分がかなりある。

1989年に連合埼玉初代会長に就任した。これまで産別の運動に尽力してきたが、もっと大きな流れを見なければならぬ、と説得された。

折しもベルリンの壁が崩壊し東西冷戦構造の終焉を迎える。政治的・経済的に協調しなければならない時代が到来した。労働組合はどうあるべきか。自分たちの生活基盤を支えるには、企業基盤、産業基盤を強化する。そのため産業政策が重要となる。自分たちの企業だけがよければということではなく、協調して産業を支えることが課題だと痛感した。

連合埼玉では労福協の橋渡しと、最賃の取り組みに精力を注いだ。また連合の政策要求ではPDCAを念頭に置いた取り組みに尽力した。

1993年からのゼンキン連合会長時代。基本理念を中小労働運動において、格差是正を進めていった。組織運営は大手労組、業種別部会、地方組織の三位一体。産業別労働組合の役割は企業基盤、産業基盤を確立し、生活基盤を強化すること。

時代は円高で、産業空洞化が進行していた。産業政策には政治が重要との助言を受けて、組織内議員を擁立することに。当時の今泉会長代行が適任だった。私は友愛会の会長でもあった。ゼンキン連合だけの戦いでなく、ゼンセン、電力、自動車もいる。それを支えるのは大変なこと。だが選挙は勝たねばならない。皆の力で何とかゼンキン連合に組織内議員を作ることができた。その今泉議員と連携して労働界、財界、政界、学界、マスコミ、行政も含め強力な働きかけを行い、ものづくり基盤振興基本法制定することができた。

JAM結成は1999年9月9日。労働評論家の故芦村庸介先生の9の並ぶ重陽の節句が良いとの進言を受けて決めた。全金同盟が分裂して「同盟・全金同盟」と「総評・全国金属」は40年以上も対峙を続けてきた。それが1986年の機械金属共闘会議で、全機金、機労会議を含めナショナルセンターを超えて結集し、最賃、春闘を闘うことになったのが始まり。その後1992年に「機械金属統一を話し合う会」を発足、1994年同会で「新しい組織理念のまとめ」を行い、1996年にJAM連合会を出発させ、統一準備会を設置した。そして1999年9月9日を迎えるわけだが、ようやく鉄樹に花を咲かせることができた。この間の関係各位のご尽力には大変感謝し、敬意を表する次第である。

参加者66人。



～講演会～

① 第83回講演会（友愛労働歴史館・労使関係研究協会共催）

日時：2017年4月3日（月）

場所：友愛会館8階・友愛労働歴史館研修室

テーマ：ユニテリアン牧師・内ヶ崎作三郎と友愛会

報告1「ユニテリアンの政界進出の背景を探る」

報告者 間宮悠紀雄（友愛労働歴史館事務局長）

1. 企画展「内ヶ崎作三郎」の3つのポイント

2. ユニテリアンとは、ユニテリアンの定義、ユニテイアン・ミッション（自由のための運動）

3. 教会解散後のユニテリアンたち

4. （小山東助・永井柳太郎・星嶋二郎・内ヶ崎作三郎・安部磯雄・鈴木文治・河上丈太郎・松岡駒吉・市川房枝）

5. ユニテリアンたちが共有した想い

「自由の拡張」「社会運動の解決」「ユニテイアン精神による理想社会の構築」

報告2「内ヶ崎作三郎と友愛会」

報告者 芳賀清明（労働運動史研究者）

1. 内ヶ崎作三郎とその周辺

2. 鈴木文治の「恩人」としての内ヶ崎作三郎

3. 友愛会を支えた内ヶ崎作三郎

参加者30人。



② 第84回講演会

日時：2017年8月1日（火）

場所：JAM西日本会館6階・講堂

テーマ：「民進党支持率回復の秘策は？労組の対応は」

講師：中野寛成（元衆院議員）

自民党安倍内閣が加計問題や閣僚の失言問題で支持率を落とす中、受け皿となるべき民進党の存在感が伸びないのはなぜなのか、というテーマで講演会を開催した。折しも蓮舫代表の辞任というハプニングもあり、時宜を得た講演会となった。

中野講師から①に現代の世界状況は、②として民主党政権時代の反省と民進党の使命と再建という、二つに分けた講演をいただいた。

①では、現在の世界は中国、ロシア等の覇権主義やアメリカ等の偏ったナショナリズムの高揚、イスラム過激主義等で人類の英知である民主主義が崩壊しようとしている状況であると、その中で日本の果たす役割は大きく、宗教的にも、地理的にも日本は世界をリードしていける。

②では、過去の民主党政権の反省に立ち、民進党は組織政党として中央、地方の党組織の整備確立と、国家観・歴史観・世界観・憲法観を確立すること、この時に左に傾くと支持率は伸びないことを肝に銘じて、党内の意思統一を図っていくことが大事である強調され、長年の議員経験に基づく貴重なご講演をいただき閉会した。

参加者34名。



～友愛会創立を記念する会～

報告会

テーマ：「賀川豊彦と友愛会・総同盟」

講師：杉浦秀典氏（賀川豊彦記念松沢資料館・副館長）

10時30分から友愛会館8階の友愛労働歴史館研修室で、恒例の友愛労働歴史館主催による「友愛会創立を顕彰する報告会」を開催しました。今年は講師に賀川豊彦記念松沢資料館副館長の杉浦秀典氏をお招きして、「賀川豊彦と友愛会」とのタイトルで講演会を行いました。参加者47人。



記念パーティー（写真は表紙に掲載）

正午から友愛会館9階の大会議室で、友愛会創立を記念する会主催の「友愛会創立105周年記念パーティー」を開催しました。司会は石田昭浩事務局長（電力総連事務局長）。

石田事務局長のあいさつの後、昨年の104周年より1年間で逝去された会員の方々を紹介し、黙祷を捧げました。

次に主催者を代表して、高木剛「友愛会創立を記念する会」会長は、「105回の記念日を迎えた。大正元年にユニテリアン協会にて、ここに声を挙げた友愛会であるが、その魂というべき労働組合主義は、今日の労働運動においても目指すべき大切な目標として残っていると信じている。」「最近『全体主義と闘った男・河合栄治郎』という本を読んだ。ボルシェビズムと闘い、軍部・ファシズムと闘い、左右の全体主義の中で経済・政治の潮流をどうしていくかということについて多くの功績を残された。その考え方は労働運動にも通じるものがある。もう一度思い起こしてみたい」とあいさつされました。

来賓挨拶は連合を代表して、逢見直人事務局長が「友愛会のDNAを受け継いでいる私たちにとって、8月1日は大事な日。」「最近騒がせている労基法改正問題の経緯について、連合は変節したのではなく、最悪の事態を避ける歯止めを示したもの。今後は労働政策審議会で対応していく」と報告し、理解を求めました。

民社協会から川合孝典専務理事が「『働き方改革』法案は、秋の臨時国会のメインテーマ。民進党内でも政労使合意が先行してしまうのではという危惧を持っていたが、神津連合会長が官邸に行ったということだけで一方的に内容が決まってしまったということでない。勤労者のためにどういう法律があるべきかということで党内では議論している。」「党代表が辞任してご心配をかけている。民進党は考え方の中軸を決めていないという批判をいただく。次の代表は私たち（勤労者）のための政策を実行に移せる方を代表にしていかなければならない。」と呼掛けました。

政研フォーラムから谷藤悦史理事長は「友愛労働歴史館では今年、賀川豊彦を取り上げている。実はキリスト教社会主義＝友愛というものは世界中に残っている。アメリカではラインホルド・ニーバー。スコットランドでキリスト教社会主義を普及させたジョン・マクマリー。トニー・ブレアは彼に会ってから政治を始めていく。そして労働者だけの政治でなく、社会的に富を還元しようという第三の道を提唱した。」「政治にはそれぞれ帰るべき原点がある。しかし日本には原点を持たない政治家が多すぎる。8月1日という原点を大切にしながら継続していく。それが日本の政治を少しでも変える縁ともなればと思っている。」と挨拶されました。

このパーティーには民社協会の現役国会議員、前国会議員の方々。柳沢稔参院議員、津田弥太郎前参院議員、田中慶秋前衆院議員が出席。

乾杯の音頭は「友愛会創立を記念する会」岸本薫副会長（電力総連会長）。参加者は相互に歓談し、午後2時頃散会しました。参加者122人。

賀川豊彦と 友愛会・総同盟

開展 2017年 7月6日(木)～12月22日(金) 平日 10:00～17:00

教師、社会運動家として知られる賀川豊彦(1888～1960)は、1917(大正6)年にアメリカ留学から帰国し、友愛会の活動に加わります。このため2017年は賀川豊彦が友愛会活動へ参加して100年の節目の年、友愛労働歴史館はこれを記念し、賀川豊彦記念法沢資料館との連携・協力の下、企画展「賀川豊彦と友愛会・総同盟」を開催して、労働運動家・賀川豊彦を浮き彫りにします。

第1部 賀川豊彦の生涯

1888(明治21)年～1960(昭和35)年

1900(明治31)年に神戸で生まれた賀川豊彦は、キリスト教伝道者・牧師として、労働運動や音楽運動、協同組合運動などに専ら取り組みます。第1部では1960(昭和35)年に72歳で死去した賀川豊彦の生涯について、写真やパネルで紹介します。



ロンドンユニオン第一組合教会で講壇する賀川豊彦



大正13(1924)年
島根県で
労・教交渉
員としての
賀川豊彦

第2部 日本労働運動の母・賀川豊彦、「賀川イズム」

1917(大正6)年～1921(大正10)年

1917年に友愛会の活動に参加した賀川豊彦は、神戸を拠点に関西労働運動を主導します。賀川の労働運動理論は「賀川イズム」と呼ばれ、当時の労働運動に大きな影響を与えました。このため「日本労働運動の父は鈴木文相、母は賀川豊彦」「(島根)求道」と呼ばれました。第2部では「賀川イズム」とその『自由組合論』について解説します。



大正12(1923)年
同志会会場で
賀川豊彦、島根県長



大正10年 11月 三菱争議被害者の集まる労働組合

第3部 川崎・三菱争議と賀川豊彦、新たな活動の舞台へ

1921(大正10)年～1960(昭和35)年

1921(大正10)年、日本労働運動史に輝く神戸の川崎・三菱争議が勃発します。賀川豊彦と友愛会・総同盟は全力で闘いますが争議は労働者の敗北で終わり、急激なグループの分裂を招きます。第3部では労働運動を主導した「賀川イズム」の崩壊と、新たな活動の舞台へ選んでいく賀川豊彦について、写真や解説パネルで浮き彫りにします。

友愛労働歴史館

〒105-0014 東京都港区芝2-20-12 友愛会館8階 一般財団法人日本労働会館内
TEL:03-3473-5325 FAX:03-3451-1710
E-mail: yuaidokareki@kanrodokaihan.org HP: http://www.yuaidokokaihan.org

企画展「賀川豊彦と友愛会・総同盟」は12月22日まで！
次の企画展に向け、現在「片山哲」に関する史料を探しています。

「きずな」寄稿のお願い

会員交流誌「きずな」は労使研会員各位の交流を一層充実させることを目的に、2006年の発行以来、今回で15号をむかえることとなりました。会員の自由な作品の発表や、紙面を通じた建設的な意見交換など、ジャンルを問わない掲載内容としておりますので、積極的なご寄稿をいただければ幸いです。

●掲載内容：特にテーマは定めません。労使関係、労働分野はもとより、政治、経済、社会、文化、紀行、趣味、娯楽など、専門分野も含めた全般とし、ジャンルを問いません。また記事や小説・詩歌等の作品、写真、イラスト、漫画の投稿も歓迎いたします。

●字数：原則として1ページ(1,200字まで)または2ページ(2,400字まで)の二通りとしていますが、自由に執筆いただいても結構です。

●原稿締切：2017年11月6日(月)

●送付先：労使関係研究協会(電話番号：03-3453-5386)
担当 滑川太一

●メールアドレス： roshiken@rodokaikan.org

●郵送：〒105-0014 東京都港区芝2-20-12 友愛会館8階

●FAX：03-3451-1710